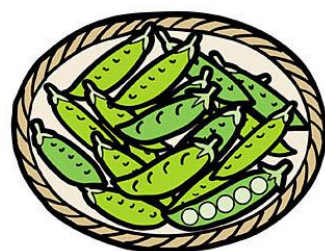


JA 営農情報

№361 令和7年 10月号

えんどう栽培

10月に入り、キャベツやハクサイ等は定植を終えた頃ですが、同時にえんどうの種まき適期でもあります。越冬させたりネットで整枝・誘引したりする必要があるため手間と時間はかかりますが、品種次第では長く収穫を楽しむことができます。



■育苗

3号サイズのポットに3粒ずつまき、本葉が出てきた頃に生育の良いものを1本残して残りを間引きます。（間引きは、引き抜かずに株元を切って行います。）本葉が3～4枚になれば定植適期です。

※極端な早まきは苗が生育しすぎてしまい、耐寒性が低くなって越冬できなくなる恐れがありますので、避けてください。

※直まきは鳥害を受けやすいため、ポット育苗後に定植する方法をおすすめします。

■栽培管理

えんどうは酸性土壌を嫌うため、定植前に苦土石灰をしっかりと入れておきましょう。また、連作障害が出やすい野菜でもあるため、マメ科野菜を最低5年間は栽培していない場所を選んでください。

畝幅は150～180cmと広めに確保し、株間35～45cmの1条植で栽培します。マメ科野菜は、元肥に化成肥料8-8-8を1㎡あたり70g程度入れておけば、基本的に追肥は必要ありませんが、開花時期に生育が悪いようであれば、必要に応じて少量追肥をしてください。

※うどんこ病に注意！

主な発生時期は春頃ですが、写真のように葉の表面が白いカビに覆われる病気で、多発すると生育が悪くなったりさやに黒いシミ状の点ができたりします。

発生後の防除は困難なので、密植を避けて風通しを良くするほか、必要に応じて予防剤を散布しましょう。



米検査に向けて

■防除履歴の提出

当ＪＡへ玄米出荷をいただく際は、検査当日の１週間前までに栽培履歴の提出が必須となっております。栽培履歴は、生産されたお米が安全であることを証明する大切なものですので、各作業日や農薬の散布日等を正確にご記入の上、必ず提出をお願いします。



■玄米重量

検査を受けるために必要な玄米重量は、風袋込みで30.3kgです。重量が不足していると検査を受けることができませんので、出荷前にしっかり確認しましょう。

■水分量

検査時の理想の水分量は、14.0～14.9%の範囲内です。粳摺り後の水分量の調整は非常に困難なため、粳摺り前までにしっかり乾燥させましょう。また、水分量が16.0%を超えたものは検査規格外となり買取ができませんので注意してください。

☆みしま館 出荷会員募集のご案内☆

当ＪＡが運営する農産物直売所『みしま館』の出荷会員を募集しています。直売所への持込が困難な方については、営農経済センターへ持込いただくかご自宅へ集荷にお伺いすることも可能です。

少量でも構いませんので自分で育てた農産物を出荷してみませんか？

詳細についてはみしま館までお問い合わせください。 *TEL：645-7100

《各種相談日のお知らせ》

	法律相談 隔月第2木曜日	税務相談 隔月第4金曜日	ローン・資産・介護相談
10月	——	24日	下記店舗にて随時受付しておりますので、お気軽にお問い合わせください。
11月	13日	——	
12月	——	※19日	
【実施場所】ＪＡ茨木市 本店3階 小会議室 【受付時間】午後1時～午後4時 ※定員は3名ですので、事前にご連絡ください。 ※12月の税務相談は第3金曜日に実施します。 総務課 広報ふれあい係 TEL：627-7768			● <u>ローン・資産相談</u> ＪＡ茨木市 各支店 ● <u>介護相談</u> 介護支援センター（TEL：627-7767）



ご利用ください

【テレフォンサービス】青果物の市況をお知らせします。 TEL:641-9150

【営農110番】栽培方法等ご相談ください。 TEL:641-9050